

議 事 録

会議名	釧路市障がい者自立支援協議会 第3回生活支援部会	
事務局	釧路市障がい福祉課 釧路市障がい者基幹相談支援センター	
開催日時	令和5年1月30日(月) 15:00～17:00	
開催場所	ZOOM	
出席者	部会員	出席34名 高橋部会長（鶴が丘学園） 井上副部会長（あゆみ） 佐藤副部会長（ニチケアセンター） 須藤（となり） 平間（社会福祉協議会） 松田（ぽこあぽこ） 堀・小形（鶴野支援学校） 菅原（音別保健福祉課） 田村（アルケー） 赤田（ぴちかーと） 菊池（かがやき） 松田（いまい） 三村（花笑み） 宮澤（OK） 藤山（くしろ地域生活支援センター） 北川（丹頂の園） 伊藤・種村（すてっぷ） 佐藤（かん月えん） 西（大きな木） 野宮・鈴木・松館（トーロ） 阿部・工藤（CALMA） 今野（ふろぐれ） 西原（ひだまり） 成田・藤澤（中標津支援学校） 竹川（プルミエ） 北澤（アトリエ） 鳴海・若宮（レンリソウ） （敬称略）
	その他	講師2名 伊東利恵（くしろせんもん学校） 長谷由香（くしろせんもん学校） （敬称略）
	傍聴者	
	事務局	出席3名 鈴木・高杉（釧路市障がい福祉課） 金子（釧路市障がい者基幹相談支援センター） （敬称略）
会議次第	1、開会 2、挨拶 3、研修会 4、その他 5、閉会	

議 事 内 容

1、開会の挨拶 事務局 金子氏より挨拶

2、釧路市障がい者自立支援協議会 生活支援部会長 高橋氏より挨拶

今年度の部会開催に於いては、支援上での困り感を中心に協議をしてきたが、その中でも高齢化する利用者の方への対応について困難さを抱えているという意見が多く、特に障がい特性などにより疾患の症状に気づくことが出来ないことや、介助が必要な方であっても理解を得ることが難しく応じて頂けないなど、現場の中で課題に直面している現状などから、今回、高齢期の疾患と介護スキルの基礎をテーマに講演会という形で研修を行うこととなった。

*資料の確認、アンケートの説明、講師の紹介

3、研修会

講演①「高齢期の健康を支える配慮やポイント」

講師：くしろせんもん学校介護環境科 専任講師 長谷由香氏

高齢期に見られやすい転倒・転落の原因として老化の影響から筋力や意欲の低下が考えられるが、正常圧水頭症など脳疾患が起因していることもあり、既往症や日常の観察の違和感を意識して早期に発見対応することが重要。また、老化により薬の影響が出やすくなることも見られ、薬剤の蓄積により薬の効果・副作用が強くなるなど有害作用が生じやすいという視点も可能性として想定しておく必要がある。実際の介護現場での介護職と医療職の連携について動画にて説明。

一方、脱水についても高齢期になると水分摂取量や生活習慣病の既往歴などにより脱水を起こすリスクが高まることから、日常的に水分補給を意識するなど予防の視点が重要である。併せて、誤嚥の観察のポイントなどにも触れられている。

講演②「介護スキルの基礎」～生活を支えるための介護技術～

講師：くしろせんもん学校介護環境科 専任講師 伊東利恵氏

生活援助技術を行なう前提として、利用者の方へは介護を要する状態にあるということを認識して貰い受け入れてもらえるよう日常のコミュニケーションが大切である。そして、介護者は利用者理解に努め、利用者の方の自己選択を尊重し自立しようとする意欲が高められるよう専門的な基礎的知識や技術の習得が必要である。

又、直接的な介助技術として双方にとって負担軽減に繋がるボディメカニクスの原理を活用した技法を取り入れること、自然な動きを意識し、できる能力を引き出すことが重要である。実際の体位変換や食事介助については、動画にて説明。

4、その他 *アンケートの説明

5、閉会

以上